

## 令和7年度釜石市市政懇談会会議録【質疑応答・概要】

日時 令和8年1月19日（月）18時30分～20時

場所 鵜住居地区生活応援センター

参加者数 18人

### ■質疑応答

- ① 第六次釜石市総合計画後期基本計画について
- ② 釜石市立地適正化計画について
- ③ その他

【Aさん】

日本の人口も1億2,000万人ぐらいですか。釜石は3万人を切っていると。つまり少子高齢化の時代になっていますが、直近、盛岡市が事業の見直しをやるということで話に出ているようです。4月以降、行政改革をやっていきたいというお話がありましたが、どういったことが考えられるのかお伺いします。

それからもう1点ですが、大槌町と行政地区が一緒になれば本当にメリットがあるのではないかと個人的に思っています。その辺をお伺いします。

<総務企画部長>

人口が減っていけば、それだけ税収が減っていき、歳入が減っていくということが一番大きな課題になってくると考えています。ただ、その中でやるべきことはやっていかなければならないということを大前提に、毎年3年を見直す実施計画というもので事業を選びながら予算との兼ね合いで進めていかなければならないと考えています。なので、今後事業も場合によっては規模縮小、或いは事業を何か別な事業に変えて進めていく等も当然出てこようかというふうに考えています。今年の4月から進めようとしている行政改革大綱は、大きくは市職員の人材、市役所の組織、財政基盤の強化の3つに分けて、5年間で進めていこうというところです。人材に関してはなかなか市の職員の成り手が少なくなっていて、人材の確保に危機感を覚えているところです。また、歳出の部分で人件費がありますので、その時代に合った適正な定員管理をしていかなければいけないと考えているところです。組織としては、市役所もコンパクトな組織にして効率化を図っていき最大の結果を出していくというところに取り組んでいかなければならないと考えています。その基礎となるのは職員ですので、職員の能力向上のため人材育成を進めていかなければいけないと思っています。非常に厳しい事態になってきていると認識しています。今後ますます行政だけではなく市民の皆様の意見を聞きながら、釜石市はどうあるべきかを一緒に考えていきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお伺いします。

<総合政策課長>

2点目の質問についてお答えします。ご指摘のとおり人口が減少して財政規模が縮小する地方自治体は、連携していくことが有効な手段の1つだと捉えています。震災前の平成の大合併の際に、大槌町との合併の検討までいきましたが残念ながらそれが叶わなかったということになっています。震災後、様々な議論がある中で、定住自立圏構想を定めています。これは、合併まではせず、周辺の自治体で中心となる市を核として、連携しながら財政のコストを減らしていくということで大槌町と定住自立圏構想を結んでいます。例えば、釜石市の人も大槌町の人も施設を一緒に使えるようにすることや検診を一緒にやることによって行政のかかるコストを低減すること。あとは、釜石市職員と大槌町役場職員と研修を一緒にやることによって経費を減らすこと。今後も、定住自立圏構想を活用しながら、行政コストを削減し、持続可能なまちづくりを進めていくというところで考えています。

【Bさん】

まず1点目は、昨年、カムチャツカ半島沖の地震があって他にも津波警報が出たりしました。何となく大きい津波が来るのではないかと嫌な予感がしています。国でも数年前にシミュレーションを出し直して、この辺でも18メートルを超える津波がくるかもしれないというようなシミュレーションが出ています。日本海溝・千島海溝沖の地震津波がきたときに、どこに避難するのかとか、防災対策について具体的な話が見えてこないような気がしています。ちゃんと検討しているのであれば、そこをお聞きしたいのですが、市が指定している避難場所で果たしていいのか。それとも国が出してきているシミュレーションから考えると危ないのではないかと思うところもあります。巨大な地震・津波が来たときにどのような避難行動をすればいいのか。そこを市としてはどう考えているのか質問です。

それから基本的に津波警報が出たら徒歩避難です。冬場や深夜、体の不自由な人のことを考えると、車での避難は言われていると思います。車で避難する場合、どこに避難すればいいのですか。

私は根浜に住んでいる関係上、昨年津波警報が出たときに宝来館やキャンプ場に来ているお客さんを根浜の集会所に避難させるわけです。我々は避難誘導もし、食料や水も準備しています。もともと根浜の集会所に備蓄しているものは、町内会分しか考えていません。宝来館やキャンプ場にいた人たちの食料や水等の準備はされていないので、商工観光課とも打ち合わせをしているのですが、ぜひ備蓄品等をいただきたいと思っています。

<危機管理監>

1点目の話ですが、内閣府で令和2年にシミュレーションが出されています。それを踏まえて、県でも令和4年に国を上回る津波の高さや浸水域等のシミュレーションが示され、市は、そのシミュレーションを踏まえて津波のハザードマップを策定し、一昨年の4月あたり

に全市民に黄色い冊子を配布させていただいています。現在市では、津波の避難場所が 86 ヶ所あります。86 ヶ所の津波避難場所は、県のシミュレーションの津波の高さを超える高さの場所ということで考えていただければと思っています。

2 点目の車の避難についてです。釜石市内においても例えば漁村地域、あまり車の渋滞を招かないだろうという地区では、最小限のルートで、根浜であれば根浜の低いところから根浜の高いところに行くことを、市として否定するわけではありません。震災のときに市街地の方では、交差点の信号機も全部消灯して誘導する人もいないという中で逆走している車もありました。なかなかそういった中で車避難を声高にできないというのが、今の現状です。ただ、陸前高田市や久慈市では車避難の実証実験等、色々取り組まれている事例もありますので、釜石であればどのように運用できるのかということ念頭に考えていきたいと思えます。

先ほどリスクのお話もいただきました。現在釜石市では大体 4,000 人ぐらいの避難者に対する備蓄を用意しています。例えば毛布、資機材、食料や水等は東中学校、鶴住居小学校等の拠点避難所にあります。市内には避難所が 18 ヶ所あります。あとはプラスアルファということで分散して備蓄しています。特に海側の地域で大変なことになれば、内陸部の方から必要数量を運搬し、それでも足りない場合は流通備蓄ということで、内陸部やへり、色々なものを使って物資を確保しようという動きを進めています。商工観光課の方と協議しているということは伝え聞いておりましたので、協議にも入らせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

#### 【Cさん】

桑ノ浜は、津波警報となれば水門が閉まってしまいます。そうすると海岸で作業している方、釣りをしている方は、水門が完全に閉まって、高台に行くためには、両石方面に行くしかありません。車を置いて水門を駆け上がることになれば、階段しかないのです、内側の階段をまた下に降りなければいけません。また堤防の裏側に降りなければいけないような階段の作りです。正直言って漁師の方々も年々高齢で、階段を上がるのもきつから無理だという感じですが。結局は両石方面に車で移動するしかないという感じになっています。両石方面に行ってもまた海岸線を通らなければいけないので、両石方面の道路に孤立するような状態になります。この点について検討していただきたいです。国道に繋がるような道路がなければ、復興住宅に入る人はいないと思います。高齢化で毎年人口が減って後継者も残っていないような状態なので、20 年後には、かなりの人がいなくなってしまうのではないかと考えています。階段からそのまま高い場所に移動できるように現場を見て検討していただきたいと思えます。

#### <危機管理監>

東日本大震災を受けて、市内だけでなく他の港等も含めて、水門陸閘或いは自動で閉まる

設備等も整備をしてきました。その中で、そこに住む人の高齢化等、当初考えていた状況とまた違うところがあればご意見等を改めて皆さんとお話させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【Dさん】

私は現状の釜石を見て20年後どうなっているのかと思います。釜石は、何としても企業の誘致・産業のまちということで、これまでも力を入れて取り組んできたとは思いますが、その辺に取り組んでいただきたいと思います。人口の減少も、釜石ならではの産業、新たな産業、或いは既存の産業を含めて図っていくことで、若い人たちが釜石に定着し、釜石を盛り上げていくということが考えられるわけです。私は企業誘致など産業の振興は非常に大事だろうと思います。人口減少に歯止めをかけるのも、産業振興、産業育成、それを支える数少ない若い人たちが釜石から出ていくことのないように、釜石にいたいというような環境を作るのが担当部署の仕事ではないかと思います。期待しています。

<副市長>

人口が減っていく中で、人口減少を少しでも食い止めて歯止めをかけ、安全に楽しく暮らしていくためにも、産業振興して働く人を確保して、一緒にまちづくりしていくという環境がなければ20年後に抗えないわけですので、ご指摘のとおりだと思います。企業立地港湾課という部署では一生懸命に全国を駆け回っています。昨年、水産農林課では和山に牛の放牧が再開されたり、養鶏場といって鶏をいっぱい育てて鶏肉を生産する工場ができて、その第2工場の計画があったり、経済活動としても働く場所としても一生懸命頑張っています。釜石には日本製鉄やSMCという大きな会社もありますし両社と連携しながら、良い話を報告できるようになればすぐ説明に伺います。皆さんも一緒に頑張っていたいただければと思います。よろしくお願いします。

【Eさん】

立地適正化計画は、市長が音頭を取っているのですか。これを聞いてびっくりしました。便利なところに引っ越してきなさいということでしょう。このような計画を実施している自治体はどのくらいあるのか。

<副市長>

立地適正化計画は強制的にここから引っ越してくださいというものではなく、日本で人口が減っている中で、これまで道路を作ったり橋を架けたりするときには、国のお金をもらって作ってきました。国のお金もらうだけでなく、国からお金を借りて、色々な公共事業をやってきました。やり方はこれまでと変わらないのですが、これからはきちんと効率的・計画的にやってくださいということで、これまで以上に厳しく査問されるようになりました。

それに答えるために私たちはこういったまちづくりを考えています、例えば、人口が減ってきたので、これまでのような道路は作れないかもしれないけれど、この地域とこの地域を結ぶためのネットワークとしてこの道路が必要ですか。もしくはそこは居住誘導区域なので、これからも人がいっぱい住むからここには橋が必要ですか。そういった根拠に基づいた資料を求められるようになってきました。県内でも多くの市が既にこれを作っています。釜石もこれを作り始めなければ、これから大きなまちづくりの計画を作ることが難しくなってきたのです。そのため、私達は前向きに捉えています。9万人いた頃とは人口密度が違うので、全部が全部大橋から大石まで同じように整備することはできないかもしれませんが、そんな中で、どうすれば皆さんが暮らしやすいのか計画をまず作って、公共事業も効率的にやっていくために作るものなので、ネガティブなイメージだけではなく、何とかこの時代に合わせて釜石が頑張っていくためだと思っていますので、全国的にも努力義務として作り始まっているところです。ご理解いただければと思います。

#### 【Eさん】

具体的に何県何市でこれをやって成功したというのはないのですか。国の交付金がなくなっていることは、我々もNPOで結構絞られたから分かります。例えば、大槌で復興のために1番最初に桜木町の奥に仮設が建ったときに、年寄りをまず優先に集められて、誰も知らない人ばかりだと。要するにそれまで作り上げたコミュニティが津波で崩壊してしまって、生き残った人たちでそこに移るなら分かりますけど、年寄りが最優先だと集められる。市長が先ほどおっしゃったことは私に言わせれば、町内会の会長たちはそれをずっと何年もボランティアでやってきた人たちです。一生懸命に頭の中で描いて、一生懸命に部落の人たちが力を合わせ、努力して、コミュニティを形成してきました。それを便利という理由だけで。せっかくお金をかけて流された家を再構築したものを、便利となるのか。一概にそれは言えないと思います。だから市長のリーダーシップが働いたのか。耳障りはいいけども、内容の伝え方は世の中にいっぱいあります。しっかり地に足が着いたことを考える。人の心だと思っています。

#### <都市計画課長補佐>

まず全国で都市計画区域というものを定めている都市が1,352か所あります。今907都市が具体的な取り組みを行っています。県内では、現在14市の内、策定済みは盛岡市・宮古市・花巻市・北上市・奥州市の5市です。現在策定中は、久慈市、一関市、陸前高田市、八幡平市、釜石市の5市だと把握しています。強制的にではなく、コミュニティは重要だということは認識しています。新しい家を取り壊して移転してくれと言っているわけではなくて、あくまでも20年後にこの地域に人が住んでいただければ市として効率よく財政運営等ができると考えている構想です。

<市長>

国の人口がすさまじい勢いで減少している状況の中で、国の財政規模もかなり厳しい状況が続いているところです。今、国がやろうとしていることは、地方への補助金を厳しく絞って出し始めているという状況です。その中で、地方に国が望むのは、効率的な行財政運営の一環で、令和7、8、9年度で立地適正化計画を作りなさいと実は強制されているものでした。今日のような指摘・ご意見は、あるのだと思っていました。私も過激な説明だったのだらうと思っていました。ですが、この計画をまず作ることが補助金をもらう要件になっていまして、首根っこを掴まれているような状況です。全国自治体一斉に、この計画を作らされているという状況です。道路関係、施設関係等々の大切な国からの補助金が、もらえるための要件になっているものですから、この計画を作ること自体が過激だというふうに思っていました。ご理解いただければと思っています。

【Eさん】

今のような話は、説明の前に市長が冒頭でお話しして、致し方ないところまできていると。これから効率よくお金をもらうためにこのようなことをしなければならぬと説明してくれればいいのです。

【Fさん】

鵜住居地区に企業誘致或いは商業施設の誘致という話がなかなか見えてこないのが、現状をお伺いします。

もう1点は、空き地対策です。今では半分以上が未使用な土地だと思います。今後の空き地対策についてどのように考えているのかお伺いします。

<副市長>

企業誘致についてですが、片岸地区は住民説明会等もこれから進めさせていただければと思います。昨年、脱炭素先行地域に選定されその事業の一環で、片岸町の防潮堤の内側の方に太陽光発電所ができる計画があり、それが進められようとしています。これによって地域にもエネルギーの面や経済効果等のメリットがあるのだらうなと思っていました。実は2万4,000平米ぐらいに開発予定です。色々報道されているとおり、太陽光発電は課題があるのではないかと懸念もあると思うのですが、釜石がやろうとしているのは、地域共生型太陽光発電というもので、自然に優しく自然と共生するような太陽光発電所を作ろうという計画です。神ノ沢の旧北高の辺りにについても、実は釜石で企業誘致するときにはいい場所がありますと必ずあそこを出しています。興味を示してくれる会社もあります。あそこの有効活用は、常に検討していますので、前に進みましたらご説明にあがりたいと思います。今日も産業振興部長が欠席なのは、企業誘致の件で東京出張に行っていますので、お許しいただきたいと思います。

<都市計画課長補佐>

空き地対策ですが、状況の確認として、年2回区画整理地区を実施した地区は、ドローンを使って空中から撮影して空き地の状況を確認しています。対策としては、2年ほど前に復興庁と協力して県外向けのチラシを作成しています。もう1つ、土地活用支援制度という土地所有者様と土地を購入する方とのマッチング制度を実施していて、土地の所有者様が希望すれば、市ホームページの方に情報公開してマッチングが成立するかどうかということを実施している状況です。

【Fさん】

あまり進んでいないように見えます。現在、空き地が多い関係で草が生えたりして最近は大草の出没や火災もあるかと思えます。立地適正化計画を当てにしているわけではないと思いますが、土地活用を進めていただければと思います。

<建設部長>

空き地対策のご意見がありましたように、クマや草、土地利用の関係の問題や課題があると思います。その中で行政ができる範囲、さらに地域づくり、まちづくりに関わってできる施策を検討した過去があるということは伺っていますが、直接的に施策が講じきれないという権利等の問題もあります。その中でも、空き地を提供したい方、或いは鶴住居地区の宅地が欲しい方もアンケート調査しながら取り組んできていました。1つ言えるのは、土地活用法は引き続き検討していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【Eさん】

土地の部分についてお願いがありまして、太陽光発電をやるということで片岸町の町内会と地域電力とやりとりがありました。心配したのは、地域電力の社長はインド人だけれど、中国なのです。太陽光の話をしないうちに土地の確保をしたものを分配してしまうわけです。つまり20年後にその太陽光の会社があるかどうか。この国では、今、太陽光の発電は厳しい制限が加えられようとしています。つまりその太陽光のパネルは誰が片付けるのかということです。そこは厳しく見ていただきたい。関連しますけど、中国人が片岸町に解体屋を設置しました。2019年に中国で解体屋の廃油などの処理をきちんとできないところはダメだと言ったら何千という解体屋が西日本を中心にどんどん入ってきたのです。ご存じのとおり、3年前から千葉、栃木の辺りがやられて、自治体が設けるようになったら今度は北海道だと。事件が相次いでいます。そういうのが釜石に入ってきた場合には、当然自治体の許可を得る必要があるでしょうからチェックを厳しくしていただきたいと思います。

<副市長>

太陽光がこれだけ増えたのは 1 番環境の基準が割と緩やかだったからです。環境アセスメントをほとんど取らず、環境への被害がないということで環境基準が緩やかでした。ご指摘いただいたとおり、釜石の計画をこれまで以上に厳しい審査を受けてやりますので、健全性・安全性は逆に担保されると前向きに捉えています。それ以前に、様々な法律の他にガイドラインも持っていて、これをクリアしなければ作れないというすごく厳しいルールを持っています。先ほど申し上げた説明会をする際には、こういった基準で審査して問題ありませんでしたということをご安心いただけるような進め方をさせますので。もし不安な点があれば、ご質問いただいて構わないと思いますが、安全に進められるよう気を付けていきたいと思います。産業廃棄物は、許認可が市だけではない部分があります。例えば、工場や事業所として設置する場合には、立地協定を締結し、様々な許認可をクリアしなければ維持できませんので。地元で、ルールに基づいて、住民説明する必要があるものについては遺漏なくきちんと対応していきたいと思います。

【Gさん】

せっかく和山などに企業がきてくれているのに市道があまりにも狭いです。遠野に行くときの界木峠です。道路も広くなれば新たに来たいという会社はあるのではないかと思います。道路の整備の予定があるのかどうか伺いたしたいと思います。

<建設部長>

和山に入る入口のところは企業から要望も受けていました。そういった中で、施工業者の方とも、その辺の話を確認しつつ、道路改良・整備をすることで新年度予算に計上する予定です。予算が可決された後、令和 8 年度には一定の形で整備されることとなっています。

界木峠は、災害のたびに通行規制のあった経過もある中で、継続的に和山の市道を通れないのかという問題は、常に私たちも課題意識を持ってこれできました。今年度の初めに界木峠から遠野市を経由する市道というところで、遠野市の道路担当に直接話を伺った経過があります。市道は長狭物ですので、改良或いは整備されて効果が出てくるという性格なものです。釜石市だけが取り組んだとしても遠野市でどうなのかということがあります。やはり遠野市も道路施設の部分はなかなか新規の整備改良が見込めないと。維持補修的な方法が主になっていて、遠野市でも界木峠につながる道路整備は予定がないというところでした。地域にとっても課題や問題がある道路という認識は持っていますので、機会或いは状況を見ながら、遠野市とも情報共有してやっていきたいと思っていました。

【Aさん】

いつも頭から離れないのは、日本海溝・千島海溝沖の大地震です。15 年経ち、3.11 の反省は持っているのですが、なかなか行動に移せていない面もあると思います。その 1 つが、鵜住居地区の学校は避難場所ではなく唯一の避難所です。最低でも 20 分の間に、怪我をし

た人、或いは弱者と言われる方々はこの避難所に来ないといけないと思います。この前のカムチャツカ地震の際は、民生委員が中心になって開催したこども食堂の日だったのですが、警報が出ました。校庭に60台ほどきました。誘導する人がいませんでした。消防団でなくても係を作って学校の入り口や駐車場の係があった方がいいと思います。スーパー側の道路は一方通行になっているのですが、緊急時は上がれるように看板を作っていかなければいけないと思っています。夜は真っ暗です。大地震は停電になると思うのですが、太陽光の1つもあります。3日に地域会議の一環で勉強会を予定しています。今日、車避難の話もありましたが、車避難も重要視されています。取り決めをしなければ命は守れないと思うので要望です。

#### ■市長総括

今日は本当にありがとうございました。今日で市政懇談会は3か所目になりますが、人口減少時代のまちづくりはどうあるべきなのかという話がどこの会場でも中心でした。そして鶴住居は防災に対する意識がかなり高いと思いました。人口減少時代におけるまちづくりを考えたときに、様々なマスコミから指摘を受けているところですが、それは違うのではないかなと思ったことが最近あり、釜石の人口減少を止められないのではないかという話でした。3万人を切ったからダメなのではないか、県の人口が120万人を切ったからダメなのではないかという話を多くされるのですが、今釜石においては、本当にすばらしい取り組みをしている町内会の皆さんもいますし、面白い人たちが本当に大勢いるのだと思っています。ここに住む方々がここに住むことをどれほど満足してプライドを持って生きていくことができるのかが大切だと思っています。誇りと自信を持てるまちにしたいと考えて、施策を進めさせていただきたいと思っています。今後も、様々なご意見をお伺いしながら、釜石をさらにいいまちにしていきたいと思っていますので、今後ともよろしく願います。